港区における中高一貫校設置検討に関する区民アンケート及び児童・生徒等アンケートの集計結果について【概要版】

令和８年１０月２２日
教育委員会報告資料 No. 5

先端教育担当

1 概要

目的　区立中高一貫校の設置検討に当たり、区民や児童・生徒等の考えや希望を確認し、今後の方針に反映
期間　令和8年8月15日(土)～9月14日(月)
方法　LoGoフォーム(電子申請)による回答
周知　広報みなと(8月15日号)、港区緊急メール配信「すぐーる」、区ホームページ・LINE・X・みなトクPAYアプリ等

区民アンケート（18歳以上の区内在住者）　3,738 件

アンケートの認知経路



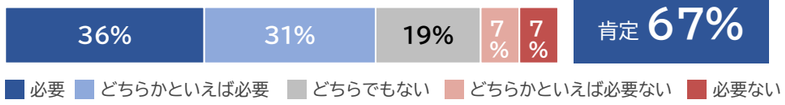
児童・生徒等アンケート（小学5年生以上17歳以下の区内在住の児童・生徒等）　3,240 件

アンケートの認知経路



2 区民アンケート集計結果(回答 3,738件)

設置の必要性



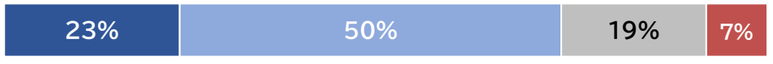
回答者の区分	回答数	肯定計	否定計
子どもが区立のみに通学	1,938	70.5%	9.3%
区立と区立以外の併存	899	64.7%	15.2%
区立以外のみに通学	432	63.9%	21.3%
通っていない(未就学等)のみ	180	71.7%	11.1%
子どもがいない	289	53.6%	24.6%

※いずれの区分でも肯定が過半数。区立以外のみ・子どもがいない層は否定がやや多い

設置要否の理由(自由記述 2,123件)

- 肯定:高校受験の負担軽減・6年間じっくり学べる(必要768件のうち40.6%)
- 肯定:選択肢の拡大(どちらかといえば必要645件のうち35.2%)
- どちらでもない:必要性が分からない／教育内容次第(どちらでもない328件のうち32.6%)
- 否定:私立・国立・都立など既存の選択肢で十分(否定合計382件のうち計160件)
- 受験の激化、人間関係の固定化、教員の確保・質(賛否共通の懸念)

進学希望(子どもが対象年齢になった場合／n=3,224)

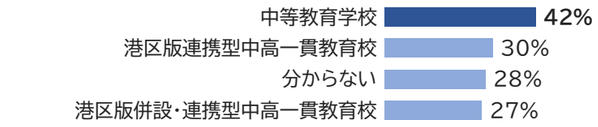


通学許容時間　→ 9割以上が45分以内を希望



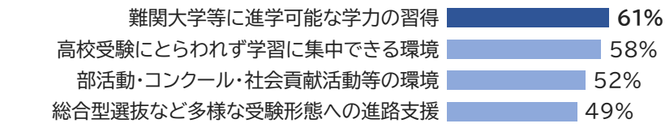
設置形態の希望(複数回答)

いずれも3割前後～4割程度で特定の案に集中せず。「分からない」も28%



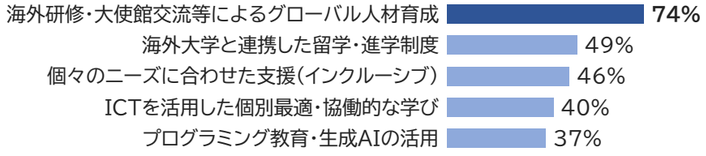
求める機能(複数回答・上位5項目)

学力向上と多様な学びの両立が求められている。

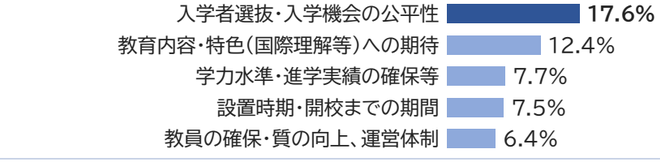


期待する特色・教育内容(複数回答・上位5項目)

国際理解教育への高い関心が示されている。



設置への期待・懸念等(自由記述 1,083件・主な分類)



3 児童・生徒等アンケート集計結果(回答 3,240件)

中高一貫校への就学希望

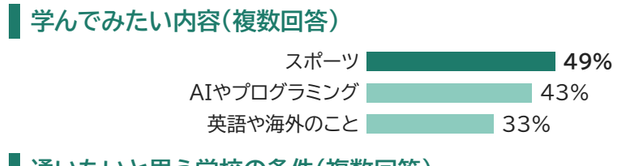


※肯定:小学生56.8%、中学生52.8%。「どちらともいえない」が約3割

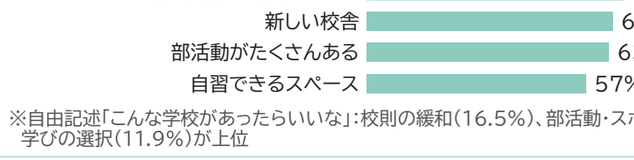
就学希望の理由(自由記述 2,404件)

- 肯定:高校受験の負担軽減・6年間の継続した学び が最多 (通ってみたい762件の38.3%／どちらかといえば通ってみたい604件の29.1%)。友人関係の継続・多学年交流にも期待
- どちらともいえない:進路決定済・対象外(24.8%)、情報不足(16.7%)
- 否定:既に志望校・進路が決定(206件)が最多

学校に「もっとあったらいいな」と思うこと(複数回答)



学んでみたい内容(複数回答)



通いたいと思う学校の条件(複数回答)



※自由記述「こんな学校があったらいいな」:校則の緩和(16.5%)、部活動・スポーツ(15.7%)、学びの選択(11.9%)が上位

4 アンケート結果から示唆される課題と対応の方向性

(1)設置の方向性

設置の方向性について、アンケートでは肯定的な回答が一定割合を占めた。区民67%・児童・生徒等55%が肯定的。中立・否定意見も含め課題を精査し、設置方針の作成に向け検討

(2)設置場所

9割以上が45分以内の通学を希望。区内でも交通利便性の優れた設置場所を検討

(3)設置形態

特定の案に集中せず、3案ともに3割前後から4割程度の回答であり、「分からない」の回答も3割程度であったことから、引き続き、比較検討が必要

(4)機能

学力の伸長を中心に、部活動等の多様な活動、区ならではの教育、施設・環境面の充実を検討

(5)特色

国際理解教育への高い関心を踏まえるとともに、インクルーシブ教育、ICT、AI・プログラミング、スポーツ等の視点も取り入れ検討

(6)設置に向けた課題

入学機会の公平性、いじめ・人間関係の固定化、教員の確保と質、既存区立中学校10校への影響、設置目的の説明・開校時期

5 今後のスケジュール(予定)

- R8年11月6日　区民文教常任委員会(アンケート結果)
- 12月　第3回中高一貫校検討委員会(設置方針)
- R9年1月　教育委員会協議(設置方針)
- 2月　庁議(設置方針)
- 3月　教育委員会審議(設置方針)
- 3月　区民文教常任委員会(設置方針)

※留意事項:本アンケートは、無作為抽出による標本調査ではなく、広く区民に回答を募る方式により実施。結果の分析に当たっては、区立小・中学校の保護者や児童・生徒等からの回答が比較的多いことなど、回答者の構成に留意

令和８年１０月２２日
教育委員会報告資料 No.５－２

先端教育担当

港区における中高一貫校設置検討に関する区民アンケート及び児童・生徒等アンケートの集計結果について

港区における区立中高一貫校の設置検討に向けて、区民及び児童・生徒等の意見を確認するため、以下のとおり、対象年齢に応じて２種類のアンケートを実施しました。

１　概要

（１）目的

港区では、子どもたち一人ひとりが自分の可能性を伸ばし、将来に向けて豊かに成長できる学びの環境を整えるため、区立の中高一貫校の設置について、検討しています。

本アンケートは、こうした検討を進めるに当たり、保護者をはじめとした区民や児童・生徒等の考えや希望を確認し、今後の方針に反映していくため、実施しました。

（２）対象

ア　区民アンケート

１８歳以上の区内在住者

イ　児童・生徒等アンケート

小学校５年生以上１７歳以下の区内在住の児童・生徒等

（３）期間

令和８年８月１５日（土）から同年９月１４日（月）まで

（４）回答方法

LoGo フォーム（電子申請サービス）を活用し、インターネット環境において実施

（５）周知方法

広報みなと（８月１５日号）、港区緊急メール配信「すぐーる」、区ホームページ、ＬＩＮＥ、X、みなトクＰＡＹアプリ等を活用し、幅広く周知

（６）回答数

ア　区民アンケート

３，７３８件

イ　児童・生徒等アンケート

３，２４０件

（７）留意事項

・本アンケートは、無作為抽出による標本調査ではなく、広く区民に回答を募る方式により実施しています。結果の分析に当たっては、区立小・中学校の保護者や児童・生徒等からの回答が比較的多いことなど、回答者の構成に留意する必要があります。

・計数については、原則として表示単位未満を四捨五入し、端数調整をしていないため、合計などと一致しない場合があります。

２　区民アンケート集計結果

（１）回答者の属性について

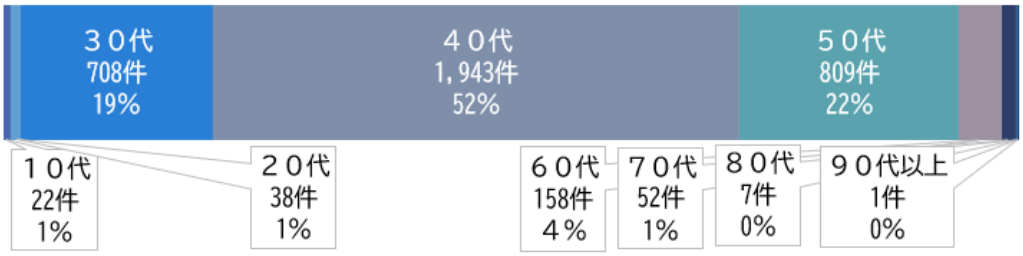
ア　住まいの地区

回答者の住まいの地区は、全体の４分の１以上である２９％が芝浦港南地区で、次いで高輪地区２７％、芝地区１６％、麻布地区１５％、赤坂地区１３％です。



イ　回答者の年齢

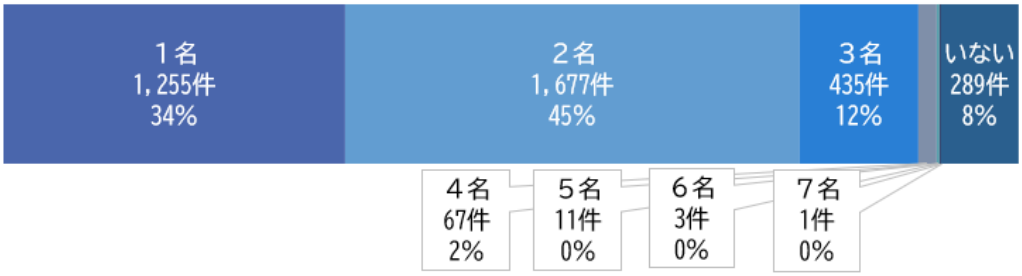
回答者の年齢は、全体の半数以上である５２％が４０代で、次いで５０代の２２％、３０代の１９％と続き、３０代から５０代までで、全体の９割以上を占めています。



（２）回答者の子どもについて

ア　子どもの人数構成

回答者のうち自身の子どもの人数構成は、全体の半数近くである４５％が２名、次いで１名が３４％、３名が１２％であり、１名から３名までで全体の９割を占めており、子どもがいない回答者は全体の８％です。



イ　子どもの年代

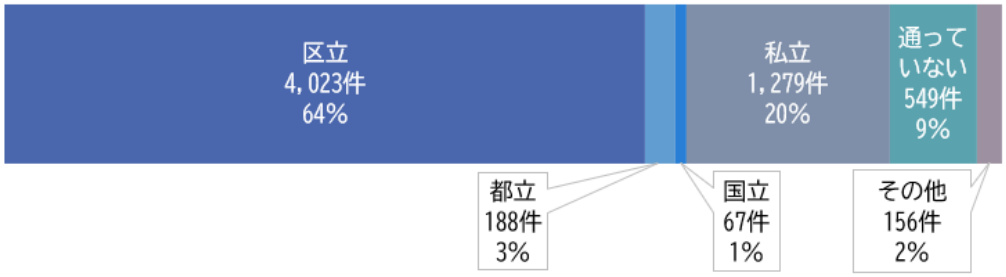
回答者のうち自身の子どもの年代は、子どもの総数６，２６２名のうち半数近くである４６％が「６歳～１１歳」、次いで「０歳～５歳」と「１２歳～１５歳」が２０％であり、０歳から１５歳までの子どもが総数の９割近くを占めています。



ウ　子どもが現在通っている園・学校

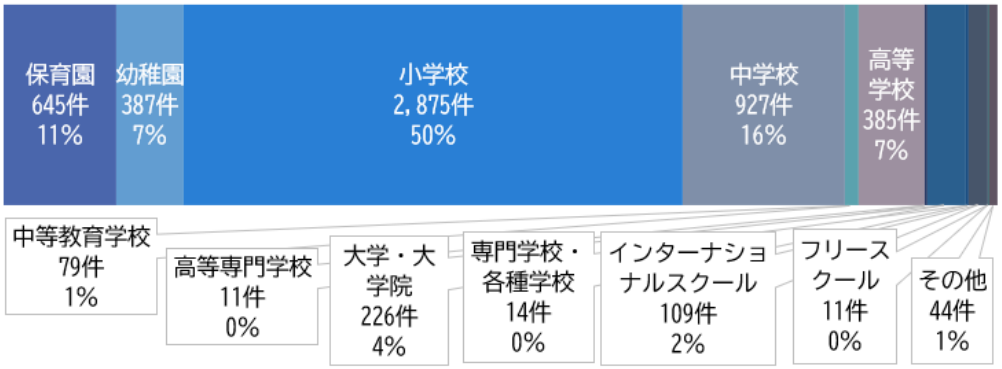
（ア）運営形態

回答者自身の子どもが現在通っている園・学校の運営形態は、子どもの総数６，２６２名のうち６４％が区立で、次いで私立が２０％であり、未就学児など現在どこにも通っていない子どもは全体の９％です。



（イ）校種別

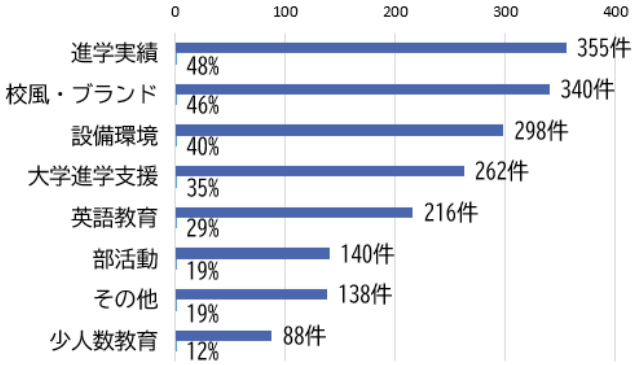
校種別では、通学等している子どもの総数５，７１３名のうち５０％が小学校で、次いで中学校が１６％、保育園が１１％、幼稚園が７％と続き、保育園から中学校までに通園・通学している子どもが８割以上を占めています。



（３）港区立学校以外を選択する理由について

港区立学校以外に子どもが通学している回答者に対して、理由を確認する設問では、任意設問に回答した７４３人のうち、半数近く４８％の回答者が「進学実績」を挙げ、次いで、４６％が「校風・ブランド」、４０％が「設備環境」を理由として挙げています。

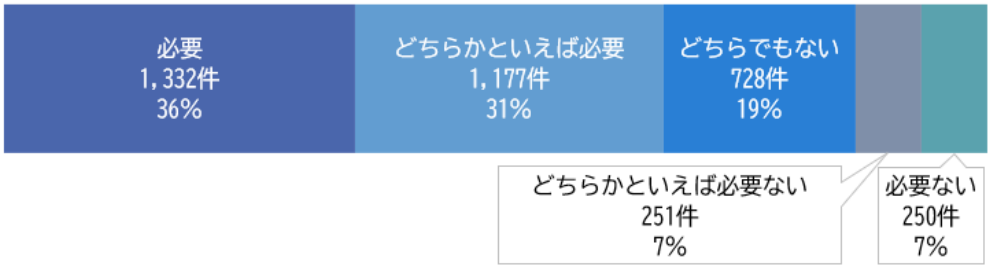
なお、その他１３８件の回答は、「自宅からの近さ」などの通学利便性・立地を理由とするものや、「大学までの一貫教育」という一貫教育への期待、「特別支援学校だから」といった子どもの特性に合った教育環境を求める回答がありました。



（４）港区立中高一貫校設置の必要性について

ア　必要性の有無

設置の必要性については、全体の３６％が「必要」と感じており、次いで「どちらかといえば必要」が３１％、「どちらでもない」が１９％、「どちらかといえば必要ない」と「必要ない」はそれぞれ７％であり、「必要」と「どちらかといえば必要」を合わせた肯定意見が全体の６７％を占めています。



イ　設置要否の理由

設置要否の理由に関する自由記述は、全回答３，７３８件のうち２，１２３件（５６．８％）の回答がありました。

肯定的な意見では、「必要」と回答し、かつ、自由記述に回答した７６８件のうち３１２件（４０．６％）が「高校受験の負担軽減・６年間じっくり学べる」を、「どちらかといえば必要」と回答し、かつ自由記述に回答した６４５件のうち２２７件（３５．２％）が「選択肢の拡大」を、それぞれ最も多く挙げており、設置の積極的な意義を評価するか、選択肢の一つとして捉えるかという違いが表れています。

「どちらでもない」のうち１０７件（３２．６％）は、「必要性・メリットが分からない／教育内容次第」であり、反対ではなく判断材料の不足による保留が中心です。

否定的な意見は、両区分とも「既存の選択肢で十分」（計１６０件）が最も多く、区が独自に設置する意義を問う意見が中心となっています。「必要ない」の回答では、財源や既存の区立小中学校の充実を優先すべきとする意見が３４件（１６．７％）と続きます。

なお、賛否を問わず、入学者選抜による中学受験の激化、６年間の人間関係の固定化、教員の確保及び質に関する懸念が共通して見られました。

自由記述の分類ごとの件数は、以下のとおりです。

回答区分	記述数	カテゴリー	件数	構成比
必要	768 件	高校受験の負担軽減・６年間じっくり学べる	312 件	40.6%
		教育内容への期待（区立の水準向上・一貫教育・特色ある教育）	177 件	23.0%
		選択肢の拡大・設置されれば進学を希望	159 件	20.7%
		通学利便性・経済的負担の軽減	29 件	3.8%
		その他（個別・具体の意見）	91 件	11.8%
どちらかといえば必要	645 件	選択肢の拡大・設置されれば進学を希望	227 件	35.2%
		高校受験の負担軽減・６年間じっくり学べる	185 件	28.7%
		教育内容への期待（区立の水準向上・一貫教育・特色ある教育）	137 件	21.2%
		通学利便性・経済的負担の軽減	24 件	3.7%
		その他（個別・具体の意見）	72 件	11.2%
どちらでもない	328 件	必要性・メリットが分からない／教育内容次第	107 件	32.6%
		私立・都立など既存の選択肢で足りる	68 件	20.7%
		選抜・一貫校の弊害への懸念	30 件	9.1%
		対象児童がいない・他施策を優先すべき	30 件	9.1%
		その他（個別・具体の意見）	93 件	28.4%
どちらかといえば必要ない	179 件	私立・国立・都立など既存の選択肢で十分	71 件	39.7%
		高校受験の経験は必要／一貫校の弊害	30 件	16.8%
		選抜の公平性・少子化・区政への不信	24 件	13.4%
		財源・既存の区立小中学校の充実を優先	21 件	11.7%
		その他（個別・具体の意見）	33 件	18.4%
必要ない	203 件	私立・国立・都立など既存の選択肢で十分	89 件	43.8%
		財源・既存の区立小中学校の充実を優先	34 件	16.7%
		選抜の公平性・少子化・区政への不信	27 件	13.3%
		高校受験の経験は必要／一貫校の弊害	18 件	8.9%
		その他（個別・具体の意見）	35 件	17.2%
合計	2,123 件	－	2,123 件	－

ウ　子どもの通学先と設置要否の相関

いずれの区分でも肯定的評価（「必要」＋「どちらかといえば必要」）が６割を超えています。最も高いのは通っていないのみの７１．７％、次いで区立のみの７０．５％です。未就学児等を含む「通っていない」のみの区分においても、肯定的な回答が高い割合となっています。

区立以外のみの世帯でも６３．９％が設置に肯定的であり、私立・国立等を選択さ

れている世帯からも一定の支持が得られています。一方、否定的評価は区立のみ９．３％に対して区立以外のみ２１．３％と２倍以上の開きがあり、特に「必要ない」は３．９％対１２．０％と約３倍の差があります。既に区立以外を選択している層には慎重な意見も存在します。

通学先区分	回答数	必要	どちらかといえば必要	どちらでもない	どちらかといえば必要ない	必要ない	肯定計	否定計
区立のみ	1,938	750 (38.7%)	617 (31.8%)	390 (20.1%)	106 (5.5%)	75 (3.9%)	70.5%	9.3%
区立と区立以外の併存	899	291 (32.4%)	291 (32.4%)	180 (20.0%)	69 (7.7%)	68 (7.6%)	64.7%	15.2%
区立以外のみ	432	154 (35.6%)	122 (28.2%)	64 (14.8%)	40 (9.3%)	52 (12.0%)	63.9%	21.3%
通っていないのみ	180	66 (36.7%)	63 (35.0%)	31 (17.2%)	11 (6.1%)	9（5.0%）	71.7%	11.1%
合計	3,449	1,261 (36.6%)	1,093 (31.7%)	665 (19.3%)	226 (6.6%)	204 (5.9%)	68.3%	12.5%

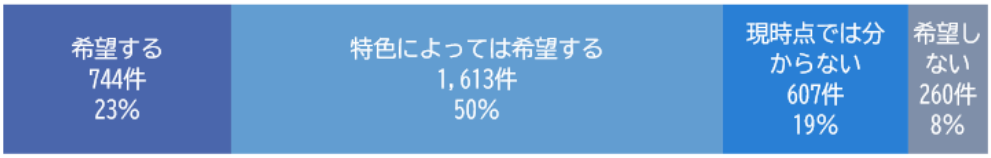
エ　子どもの有無と設置要否の相関

お子さんの「いる」回答者では肯定的評価（「必要」＋「どちらかといえば必要」）が６８．３％に達し、お子さんの「いない」回答者の５３．６％を１４．７ポイント上回ります。一方で、否定的評価は「いない」で２４．６％と、「いる」の１２．５％の約２倍となっています。ただし、お子さんの「いない」回答者でも過半数が設置に肯定的であり、否定的評価は４分の１にとどまります。

区分	回答数	必要	どちらかといえば必要	どちらでもない	どちらかといえば必要ない	必要ない	肯定計	否定計
いる	3,449	1,261 (36.6%)	1,093 (31.7%)	665 (19.3%)	226 (6.6%)	204 (5.9%)	68.3%	12.5%
いない	289	71 (24.6%)	84 (29.1%)	63 (21.8%)	25（8.7%）	46 (15.9%)	53.6%	24.6%
合計	3,738	1,332 (35.6%)	1,177 (31.5%)	728 (19.5%)	251 (6.7%)	250 (6.7%)	67.1%	13.4%

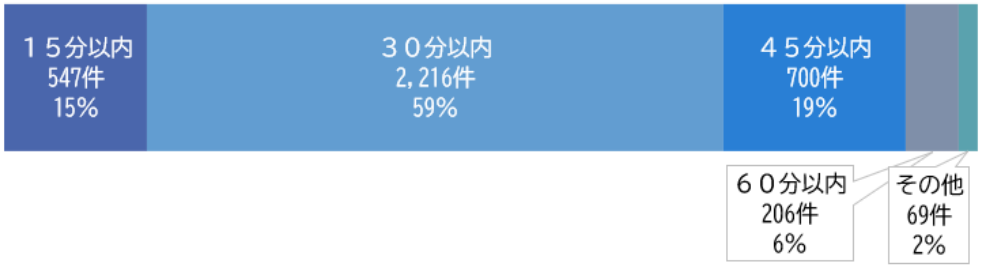
（５）港区立中高一貫校への進学希望について

子どもが対象年齢になった場合における進学希望を確認する設問について、本設問の対象３，２２４件のうち５０％が「特色によっては希望」、次いで「希望」が２３％、「現時点では分からない」が１９％、「希望しない」が８％でした。



（６）港区立中高一貫校への通学許容時間について

港区立中高一貫校への通学許容時間について、全回答３，７３８件の６割近く５９％が「３０分以内」、次いで「４５分以内」が１９％、「１５分以内」が１５％、９割以上が４５分以内の通学時間を希望しています。なお、「その他」２％の回答は、通学時間そのものではなく、設置への反対や通学時間を回答できない旨の記載が多く見られました。



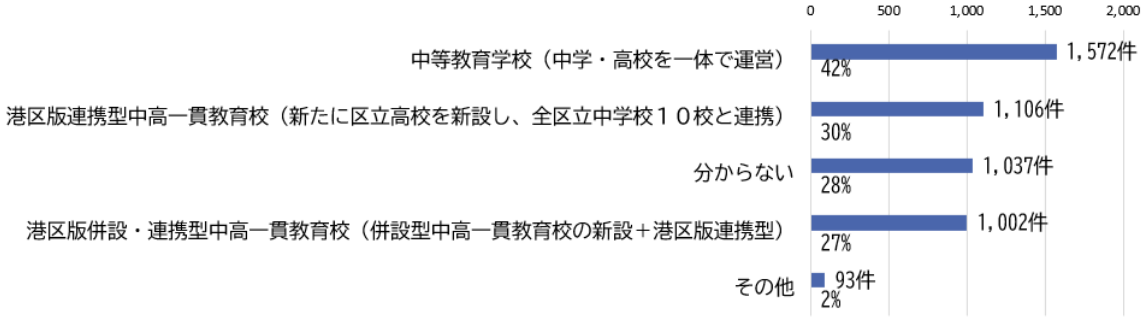
（７）港区立中高一貫校の設置形態について

ア　設置形態の希望

港区立中高一貫校の設置形態について、複数回答のうち全体の４割以上が「中等教育学校」を選択し、次いで「港区版連携型中高一貫教育校」が３０％、「港区版併設・連携型中高一貫教育校」が２７％と続き、「分からない」が２８％です。

また、その他９３件の回答のうち４７件（５１％）は、形態の選択ではなく設置そのものへの反対意見でした。これに次いで多かったのは具体的な設置形態・運営に関する提案２１件（２３％）であり、既存の小中一貫校を小中高一貫校とする案、既存校舎や都立高校の活用、大学との連携、他自治体（都立立川国際中等教育学校、都立永山高等学校等）の事例を挙げる意見が寄せられています。

あわせて、選択肢の内容が分からない、形態を論じる前に必要性の議論を尽くすべきとする指摘が９件（１０％）あり、「分からない」の回答が２８％に上ることと併せて、各形態の違いや設置目的についての分かりやすい情報提供が求められています。



イ　設置要否と設置形態の相関

設置に肯定的な層ほど具体的な設置形態を選ぶ傾向があり、中等教育学校（５４．４％→１７．２％)、港区版連携型（３７．３％→１０．０％)、港区版併設・連携型（３５．７％→４．４％）のいずれも、「必要」から「必要ない」へ向かうにつれて支持率が低下しています。一方、「分からない」は１６．７％から４８．４％へと逆に上昇しており、設置の必要性に否定的・中立的な層ほど形態の判断を留保する傾向がうかがえます。

設置の必要性	回答件数	中等教育学校	港区版 連携型	港区版 併設・連携型	分からない
必要	1,332	725 (54.4%)	497 (37.3%)	476 (35.7%)	222 (16.7%)
どちらかといえば必要	1,177	524 (44.5%)	363 (30.8%)	336 (28.5%)	279 (23.7%)
どちらでもない	728	218 (29.9%)	166 (22.8%)	152 (20.9%)	307 (42.2%)
どちらかといえば必要ない	251	62 (24.7%)	55 (21.9%)	27 (10.8%)	108 (43.0%)
必要ない	250	43 (17.2%)	25 (10.0%)	11 (4.4%)	121 (48.4%)
合計	3,738	1,572 (42.1%)	1,106 (29.6%)	1,002 (26.8%)	1,037 (27.7%)

（８）港区立中高一貫校に求める機能について

ア　求める機能

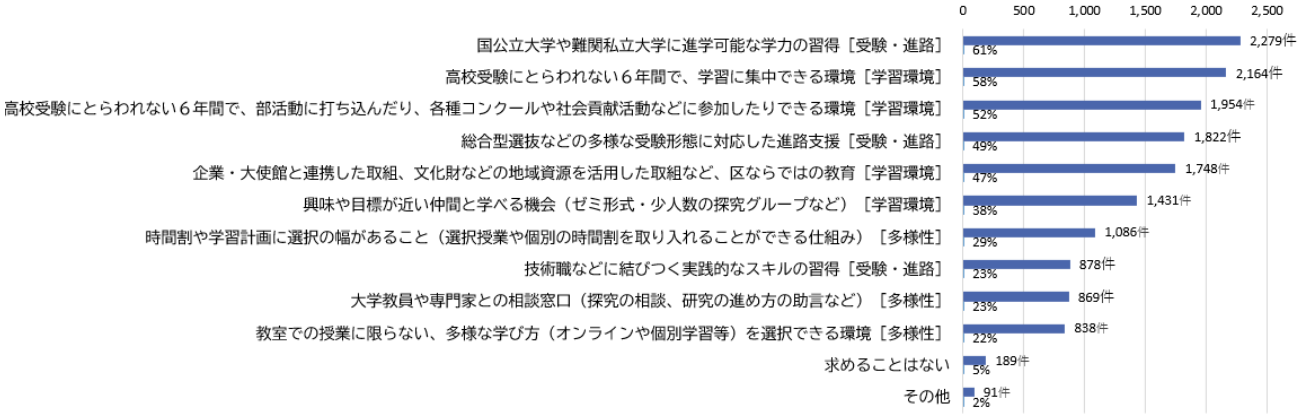
港区立中高一貫校に求める機能として、複数回答のうち最も多かったのは「国公立大学や難関私立大学に進学可能な学力の習得」で２，２７９件（６１％）であり、次いで「高校受験にとらわれない６年間で、学習に集中できる環境」２，１６４件（５８％）が続き、６年間の連続性を学力の伸長に生かすことへの期待が上位２項目に表れています。一方、「部活動に打ち込んだり、各種コンクールや社会貢献活動などに参加したりできる環境」も１，９５４件（５２％）と半数を超えており、６年間を受験勉強のみに充てるのではなく、多様な活動に充てることを望む意見も同程度に多く寄せられました。

また、「総合型選抜などの多様な受験形態に対応した進路支援」１，８２２件（４９％)、「企業・大使館と連携した取組、文化財などの地域資源を活用した取組など、区ならではの教育」１，７４８件（４７％）がいずれも４割台後半で続いており、区の特性を生かした教育と、これに対応した進路支援を一体で求める傾向がうかがえます。

他方、「時間割や学習計画に選択の幅があること」、「大学教員や専門家との相談窓

口」、「教室での授業に限らない、多様な学び方」の３項目はいずれも２割台にとどまり、「求めることはない」は１８９件（５％）です。

「その他」の記載では、国際理解教育、特別支援・インクルーシブ教育、教員の質の確保、いじめ等への対応が挙げられました。また、「その他」のうち１５件（１７％）は、求める機能ではなく設置そのものへの反対又は既存の区立中学校・都立高校で対応すべきとする意見でした。



イ　設置要否と求める機能の相関

設置に肯定的な回答者（２，５０９件）では、「高校受験にとらわれない６年間で、学習に集中できる環境」が６７．７％、「国公立大学や難関私立大学に進学可能な学力の習得」が６６．５％と高く、受験負担の軽減と学力保障の双方が求められています。

一方、否定的な回答者（５０１件）では「求めることはない」が２９．９％を占め、機能面への期待自体が限定的です。ただし、その中でも「国公立大学や難関私立大学に進学可能な学力の習得」は３８．７％と最も高く、設置の可否にかかわらず学力面への関心は共通しています。

求めること（機能）	肯定 （総数 2,509 件）	否定 （総数 501 件）
国公立大学や難関私立大学に進学可能な学力の習得［受験・進路］	1,669 （66.5%）	194 （38.7%）
高校受験にとらわれない６年間で、学習に集中できる環境［学習環境］	1,698 （67.7%）	114 （22.8%）
高校受験にとらわれない６年間で、部活動・各種コンクール・社会貢献活動などに参加できる環境［学習環境］	1,479 （58.9%）	119 （23.8%）
総合型選抜などの多様な受験形態に対応した進路支援［受験・進路］	1,358 （54.1%）	114 （22.8%）
企業・大使館と連携した取組、文化財などの地域資源を活用した区ならではの教育［学習環境］	1,339 （53.4%）	111 （22.2%）
興味や目標が近い仲間と学べる機会（ゼミ形式・少人数の探究グループなど）［学習環境］	1,091 （43.5%）	92 （18.4%）
時間割や学習計画に選択の幅があること［多様性］	820 （32.7%）	70 （14.0%）
技術職などに結びつく実践的なスキルの習得［受験・進路］	630 （25.1%）	71 （14.2%）

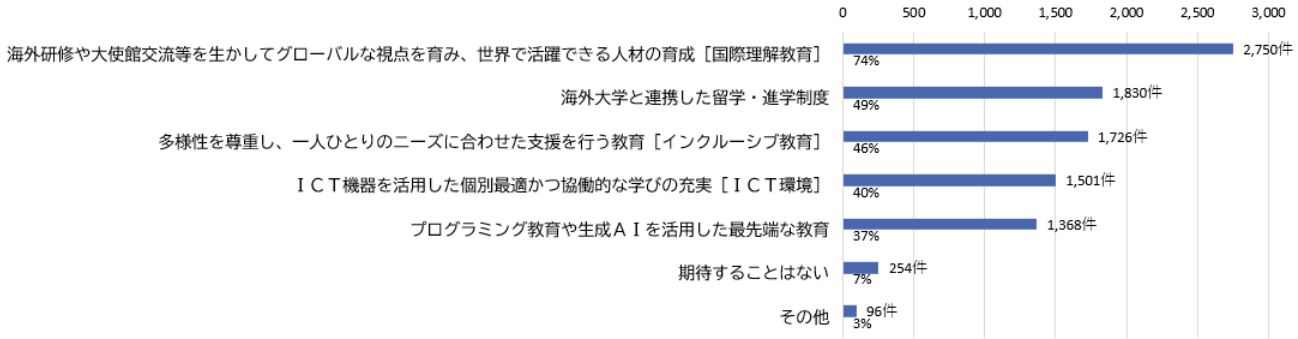
大学教員や専門家との相談窓口［多様性］	670 (26.7%)	48 (9.6%)
教室での授業に限らない多様な学び方（オンライン・個別学習等）［多様性］	625 (24.9%)	68 (13.6%)
その他	40 (1.6%)	32 (6.4%)
求めることはない	8 (0.3%)	150 (29.9%)

（９）港区立中高一貫校の特色（教育内容）について

ア　特色（教育内容）

複数回答のうち「海外研修や大使館交流等を生かしたグローバル人材の育成」が２，７５０件（７４％）と突出して高く、次いで「海外大学と連携した留学・進学制度」が１，８３０件（４９％）であり、国際理解教育に関する２項目が上位を占めており、区の特性を生かした教育への期待が最も強い傾向です。また、「多様性を尊重し、一人ひとりのニーズに合わせた支援を行う教育」も１，７２６件（４６％）と半数近くに上り、インクルーシブ教育への関心も高い一方、ＩＣＴ環境（４０％）及びプログラミング・生成ＡＩ（３７％）は４割程度にとどまりました。

「その他」の記載では、国際理解の前提として日本の文化・歴史・国語教育の充実を求める意見が最多（１４件）であり、特別支援や少人数指導に関する意見が１０件寄せられました。



イ　設置要否と特色の相関

「海外研修や大使館交流等を生かしたグローバル人材の育成」は、肯定区分では８２．３％に達しており、港区の地域特性を生かした国際理解教育が、設置を支持する層の期待の中心になっています。

否定区分では「期待することはない」が３５．３％（１７７件）を占めますが、それでも国際理解教育には３６．７％が期待を示しており、設置の可否とは別に、教育内容としての国際性への関心は幅広く共有されています。

期待する特色（教育内容）	肯定 （総数 2,509 件）	否定 （総数 501 件）
海外研修や大使館交流等を生かしてグローバルな視点を育み、世界で活躍できる人材の育成［国際理解教育］	2,066 (82.3%)	184 (36.7%)
海外大学と連携した留学・進学制度	1,396 (55.6%)	122 (24.4%)

多様性を尊重し、一人ひとりのニーズに合わせた支援を行う教育［インクルーシブ教育］	1,284 （51.2%）	125 （25.0%）
ＩＣＴ機器を活用した個別最適かつ協働的な学びの充実［ＩＣＴ環境］	1,155 （46.0%）	93 （18.6%）
プログラミング教育や生成ＡＩを活用した最先端な教育	1,063 （42.4%）	85 （17.0%）
その他	44 （1.8%）	35 （7.0%）
期待することはない	26 （1.0%）	177 （35.3%）

（１０）港区立中高一貫校の設置に向けた期待、懸念その他の意見について

自由記述の回答１，０８３件のうち最も多く寄せられたのは入学者選抜と入学機会の公平性に関する意見（１７．６％）であり、賛否いずれの立場からも「区立でありながら塾通いを前提とした受験になるのではないか」「区民が優先して入学できるのか」という具体的な制度設計への関心が示されています。

次いで教育内容・特色（１２．４％）が多く、大使館・企業の集積を生かした国際理解教育を「区立でなければできないこと」として求める意見が中心です。一方、設置目的の説明不足を指摘する意見（５．６％）、開校時期等の意見（７．５％）も一定数あり、検討過程の可視化と情報提供が課題として示されています。

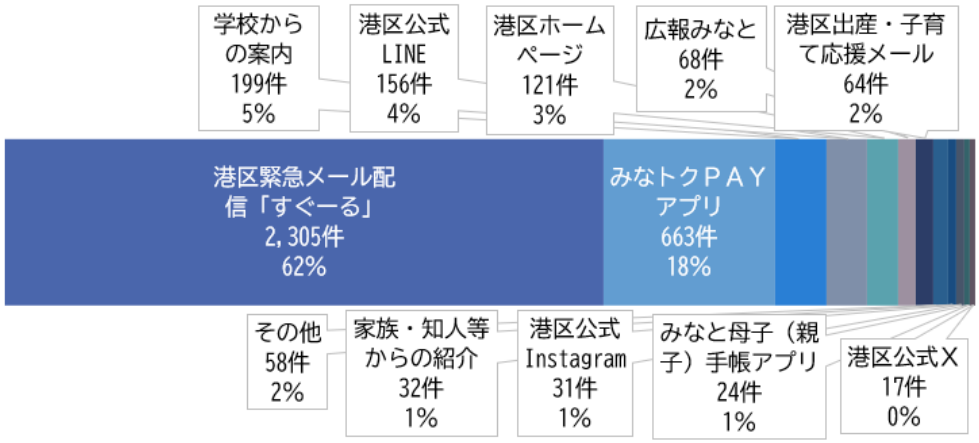
懸念点としては、いじめ・人間関係の固定化（５．１％）、教員の確保と質（６．４％）、既存の区立中学校１０校への影響（４．８％）が挙げられています。

カテゴリー	件数	構成比	主な内容
入学者選抜・入学機会の公平性	191 件	17.6%	選抜方法、中学受験の一層の激化、区民優先枠、塾通いを前提としない入学制度、経済格差の固定化への懸念
教育内容・特色（国際理解、探究、キャリア教育等）への期待	134 件	12.4%	大使館・企業との連携、国際理解教育、日本文化の学び、探究・キャリア教育など区ならではの特色を求める意見
学力水準・進学実績の確保、学力差・意欲低下への懸念	83 件	7.7%	進学実績の確保、高校受験がないことによる学力・意欲の低下、入学者の学力差への対応
設置時期・スピード、開校までの期間	81 件	7.5%	開校の前倒し要望、自分の子が対象とならないことへの残念、途中編入の可否
教員の確保・質の向上、学校運営体制	69 件	6.4%	高校教諭を含む教員の確保、指導力・質の担保、教員の負担軽減と支援スタッフの配置
設置目的・必要性の説明不足、情報提供の要望	61 件	5.6%	設置目的や解決したい課題の明示、メリット・デメリットの説明、区民への丁寧な情報提供

いじめ・人間関係の固定化、安全安心な学校環境	55 件	5.1%	６年間人間関係が固定化されること、いじめ発生時の逃げ場の確保、加害者への指導体制
既存の区立小中学校への影響･そちらの充実を優先すべき	52 件	4.8%	既存の区立中学校１０校の魅力低下や生徒の偏りへの懸念、既存校の施設改善の優先
財政負担・費用対効果、税金の使途	46 件	4.2%	施設整備・維持費用、費用対効果、税金の使途としての妥当性
施設・設置場所・通学環境	42 件	3.9%	用地の確保、校庭等の施設規模、通学手段（バス・自転車）、給食
設置そのものへの反対･必要性への疑問	42 件	3.9%	区立で設置する必要性への疑問、民業圧迫、他区の施策の模倣への批判
インクルーシブ教育･特別支援､多様な子どもの受入れ	37 件	3.4%	特別支援・発達特性のある子どもの受入れ、外国籍の子どもへの対応
高校受験の負担軽減･６年間の学びへの期待､選択肢の拡大	29 件	2.7%	高校受験のない６年間の学び、長期的な視点での教育、選択肢の拡大
期待・応援の表明（具体的内容を伴わないもの）	25 件	2.3%	「大いに期待しています」等、設置への期待・応援の表明
記載なし・他設問と同旨	31 件	2.9%	「特になし」「⑥と同じ」等
その他(個別･具体の意見)	105 件	9.7%	特定の学校名・地区名への言及、個別の家庭事情など集約しにくい記述
合計	1,083 件	100.0%	

（１１）アンケートの認知経路

全回答３，７３８件のうち最も多かった認知経路は、全体の６２％である「港区緊急メール配信「すぐーる」」で、次いで「みなトクＰＡＹアプリ」１８％となり、上位２項目で全体の８割を占めています。

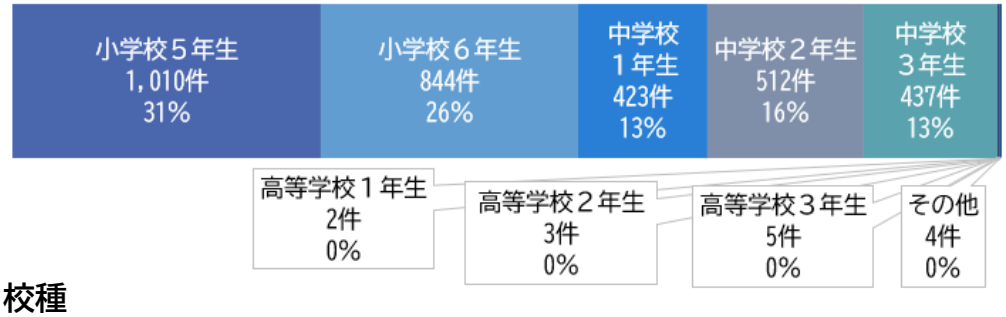


３　児童・生徒等アンケート集計結果

（１）回答者の属性について

ア　学年

回答者の学年は、最も多いのは「小学校５年生」で全体の３１％、次いで「小学校６年生」２６％と続き、全体の半数以上である５７％を小学生が占め、全体の４２％で中学生が続き、高校生等の回答は１４件です。



イ　校種

回答者が通っている学校は、全体の半数以上である５７％が「港区立小学校」で、次いで「港区立中学校」の４２％と続き、港区立小・中学校で、全体の９９％を占めています。

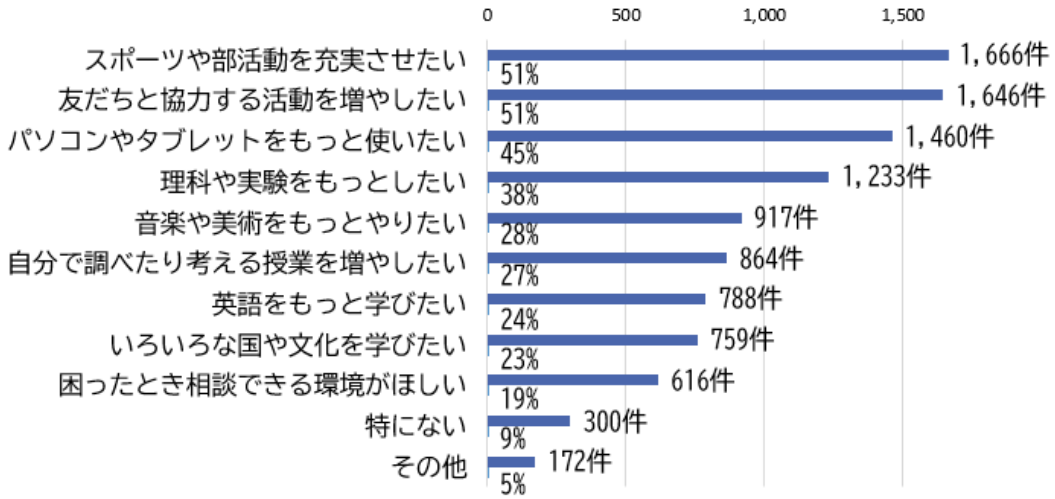


（２）「もっとあったらいいな」と思うことについて

児童・生徒等が学校に「もっとあったらいいな」と考えるものは、「スポーツや部活動を充実させたい」と「友だちと協力する活動を増やしたい」の２項目が５１％と最も多く、次いで「パソコンやタブレットをもっと使いたい」が４５％、「理科や実験をもっとしたい」が３８％です。体験的・協働的な学びとＩＣＴ・理数分野への関心が、いずれも高いことがうかがえます。

自由記述１７２件では、「学習内容の充実・選択」が４０件と最も多く、歴史や生物など特定分野の深化に加え、探究型の授業や教科選択制など、児童・生徒自身が学びを選び、深めたいという志向が示されています。次いで「休み時間・自由時間の確保」が２２件、「部活動・スポーツ」１７件、「施設・設備の充実」１６件となっており、ゆとりある時間と居場所、図書館や自習室といった学習環境の整備を求める声が多く寄せられました。

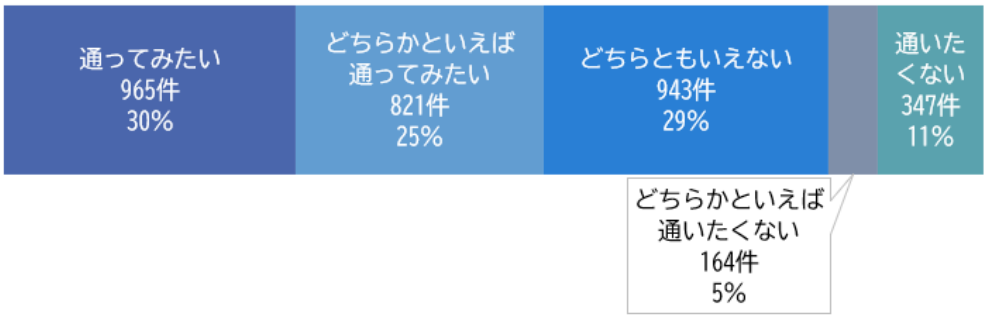
また、生成ＡＩやプログラミングの学習が１４件、海外研修や多言語学習が１１件挙げられており、先端的・国際的な学びへの具体的な期待も見られ、匿名性のある相談窓口やオンラインでの相談を求める意見も９件寄せられました。



（３）港区立中高一貫校への就学希望について

ア　就学希望

港区立中高一貫校への就学希望については、全体の３０％が「通ってみたい」と感じており、次いで「どちらともいえない」が２９％、「どちらかといえば通ってみたい」が２５％でした。「どちらかといえば通いたくない」と「通いたくない」を合わせた否定意見は１６％であり、「通ってみたい」と「どちらかといえば通ってみたい」を合わせた肯定意見が全体の５５％を占めています。



イ　就学希望の理由

就学希望の理由に関する自由記述は、全回答３，２４０件のうち２，４０４件（７４％）の回答がありました。

肯定的な意見では、「通ってみたい」のうち２９２件（３８．３％）が、「どちらかといえば通ってみたい」のうち１７６件（２９．１％）が、それぞれ「高校受験の負担軽減・６年間の継続した学び」を最も多く挙げており、高校受験を経ずに６年間を見通して学べる点が、児童・生徒にとって最大の魅力として認識されています。次いで、「学校生活への期待・安心感」及び「友人関係の継続・多学年交流」が両区分で１６％台から２０％を占めており、慣れた環境で友人関係を継続しながら、中学生と高校生が交流できることへの期待が表れています。

「どちらともいえない」のうち２９３件（４７．５％）は、「関心が薄い・どちらでもよい」、１５３件（２４．８％）は、「既に進路が決まっている・学年的に対象外」、１０３件（１６．７％）は、「学校の内容・情報が分からず判断できない」であり、否定ではなく、学校の内容・情報が分からず判断できない回答も一定数見られます。

否定的な意見は、両区分とも「既に志望校・進路が決まっている」（２０６件）が最も多く、自由記述の範囲では、既に他の進路を選択していることを理由とする回答が多く見られました。次いで、「教育水準・進学実績・校風・新設校への不安」が５３件と続きます。

なお、賛否を問わず、６年間同一環境で過ごすことによる人間関係の固定化への懸念、新設校であるがゆえの教育内容及び進学実績の不透明さに対する不安が共通して見られました。

自由記述の分類ごとの件数は、以下のとおりです。

回答区分	記述数	カテゴリー	件数	構成比
通ってみたい	762 件	高校受験の負担軽減・６年間の継続した学び	292 件	38.3%
		学校生活への期待・安心感（楽しそう・慣れた環境）	137 件	18.0%
		友人関係の継続・多学年交流	133 件	17.5%
		その他（なんとなく・特になし等）	92 件	12.1%
		通学の利便性・経済的負担の軽減	60 件	7.9%
		教育内容・施設・部活動等への期待	48 件	6.3%
どちらかといえば通ってみたい	604 件	高校受験の負担軽減・６年間の継続した学び	176 件	29.1%
		その他（なんとなく・特になし等）	123 件	20.4%
		学校生活への期待・安心感（楽しそう・慣れた環境）	121 件	20.0%
		友人関係の継続・多学年交流	102 件	16.9%
		通学の利便性・経済的負担の軽減	43 件	7.1%
		教育内容・施設・部活動等への期待	39 件	6.5%
どちらともいえない	617 件	関心が薄い・どちらでもよい（その他含む）	293 件	47.5%
		既に進路が決まっている・学年的に対象外	153 件	24.8%
		学校の内容・情報が分からず判断できない（新設のため）	103 件	16.7%
		立地・教育内容・実績等の条件次第	41 件	6.6%
		６年間同一環境への不安・一貫校の利点が不明	27 件	4.4%
どちらかといえば通いたくない	133 件	既に志望校・進路が決まっている（他校・私立志望等）	57 件	42.9%
		６年間同一環境への抵抗（人間関係の固定・飽き）	24 件	18.0%

		教育水準・進学実績・校風・新設校への不安	20 件	15.0%
		環境を変えて新しい出会い・経験を求めたい	16 件	12.0%
		関心がない・その他	16 件	12.0%
通いたくない	288 件	既に志望校・進路が決まっている（他校・私立志望等）	149 件	51.7%
		教育水準・進学実績・校風・新設校への不安	33 件	11.5%
		６年間同一環境への抵抗（人間関係の固定・飽き）	24 件	8.3%
		関心がない・その他	66 件	22.9%
		環境を変えて新しい出会い・経験を求めたい	16 件	5.6%
合計	2,404 件	－	2,404 件	－

ウ　児童・生徒等の学年区分と就学希望の相関

全体の５５．１％が就学に前向きな意向を示しています。小学生では５６．８％、中学生では５２．８％が肯定的であり、小学生層で、より高い関心が示されています。否定的な回答は小学生１５．２％、中学生１６．５％と大きな差はありません。

「どちらともいえない」は小学生２８．０％、中学生３０．６％で、全体でも２９．１％と約３割を占めます。判断を留保している層が一定数存在しており、今後の教育内容や特色の具体化、情報提供の在り方によって意向が変化し得ることを示しています。

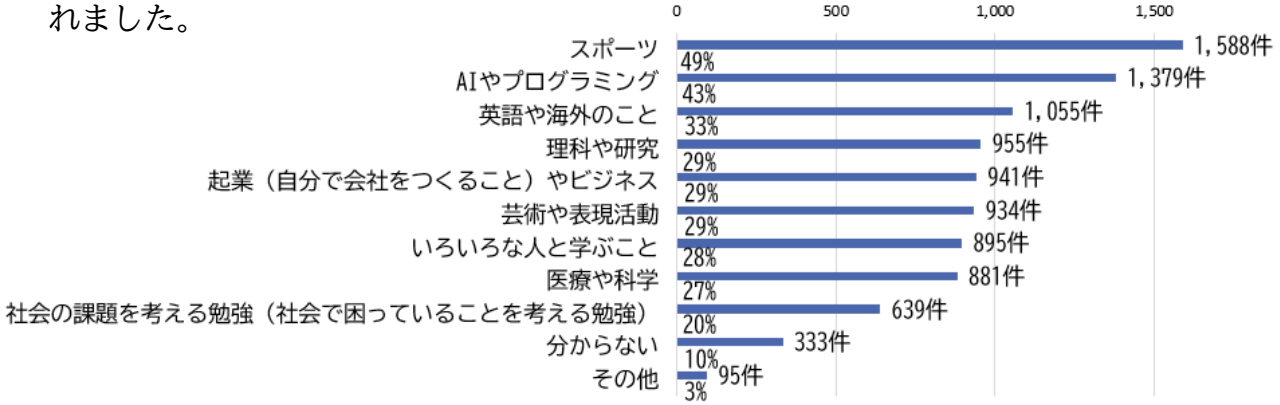
学年区分	回答数	通ってみたい	どちらかといえば通ってみたい	どちらともいえない	どちらかといえば通いたくない	通いたくない	肯定計	否定計
小学生	1,854	570 (30.7%)	483 (26.1%)	519 (28.0%)	80 (4.3%)	202 (10.9%)	56.8%	15.2%
中学生	1,372	389 (28.4%)	336 (24.5%)	420 (30.6%)	84 (6.1%)	143 (10.4%)	52.8%	16.5%
高校生	10	4 (40.0%)	1 (10.0%)	3 (30.0%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	50.0%	20.0%
その他	4	2 (50.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	75.0%	0.0%
合計	3,240	965 (29.8%)	821 (25.3%)	943 (29.1%)	164 (5.1%)	347 (10.7%)	55.1%	15.8%

（４）港区立中高一貫校で学んでみたい内容について

学んでみたいことについては、「スポーツ」が１，５８８件（４９％）と最も多く、次いで「ＡＩやプログラミング」が１，３７９件（４３％）、「英語や海外のこと」が１，０５５件（３３％）と続いています。

スポーツへの関心が最も高い一方、ＡＩ・プログラミングが４割を超えており、先端技術への学習意欲の高さがうかがえます。また、「理科や研究」、「起業やビジネス」、「芸術や表現活動」、「いろいろな人と学ぶこと」、「医療や科学」がいずれも約３割で並んでおり、将来のキャリアにつながる学びや、探究的・協働的な学びへの期待が幅広く示されています。なお、「分からない」は１０％となっています。

「その他」の記述は９５件であり、料理、ダンス、音楽等の具体的な活動のほか、税制や資産形成等の実用的な学び、政治、法律、心理学等の専門分野を挙げる意見が見られました。

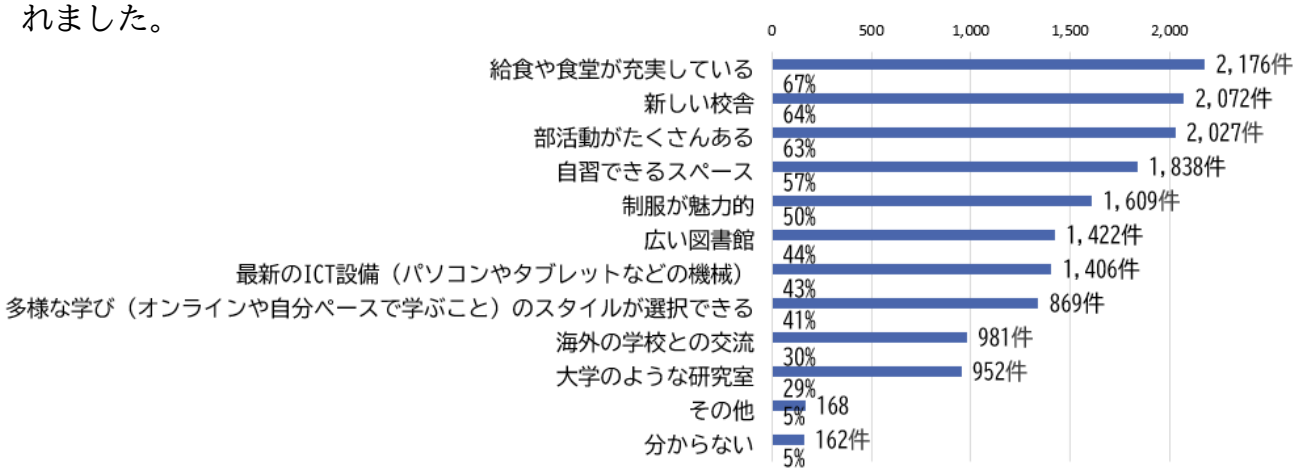


（５）通いたいと思う学校の条件について

通いたいと思う学校の条件については、「給食や食堂が充実している」が２，１７６件（６７％）と最も多く、次いで「新しい校舎」が２，０７２件（６４％）、「部活動がたくさんある」が２，０２７件（６３％）、「自習できるスペース」が１，８３８件（５７％）と続いています。

上位には、食環境、校舎、部活動、学習スペースといった日々の学校生活に直結する項目が並んでおり、施設・環境面の充実が就学意向を左右する重要な要素となっていることがうかがえます。また、「広い図書館」、「最新のＩＣＴ設備」、「多様な学びのスタイルが選択できる」がいずれも４割台となっており、学習環境の充実と学び方の選択への期待も高くなっています。

「その他」の記述は１６８件であり、広い校庭や体育館、トイレの清潔性等の施設に関する意見のほか、校則の緩やかさ、教員の質、いじめのない環境を求める意見が見られました。



（6）「こんな学校があったらいいな」と思うことについて

全回答３，２４０件のうち２，００６件（６２％）の回答がありました。

最も多く寄せられたのは校則の緩和・自由な校風に関する意見（１６．５％）であり、服装や髪型、スマートフォンの使用等に関する規則の見直しを求めるものが中心です。次いで部活動・スポーツの充実（１５．７％）が多く、種目の拡大や本格的に取り組める環境を求める意見が寄せられています。

また、学びの選択・個別最適な学びに関する意見（１１．９％）では、授業や時間割を自分で選べること、自分のペースで学べること、興味のある分野を深く探究できることなど、学び方そのものへの主体的な希望が示されています。人間関係・安全安心な学校環境（１１．４％）では、いじめや差別のない学校、落ち着いて過ごせる居場所を求める意見が見られます。このほか、施設・設備の充実（８．８％）、国際理解・語学・留学（４．７％）、ＩＣＴ・先端技術の活用（４．０％）、教員の質・指導・相談体制（３．６％）が一定数寄せられています。

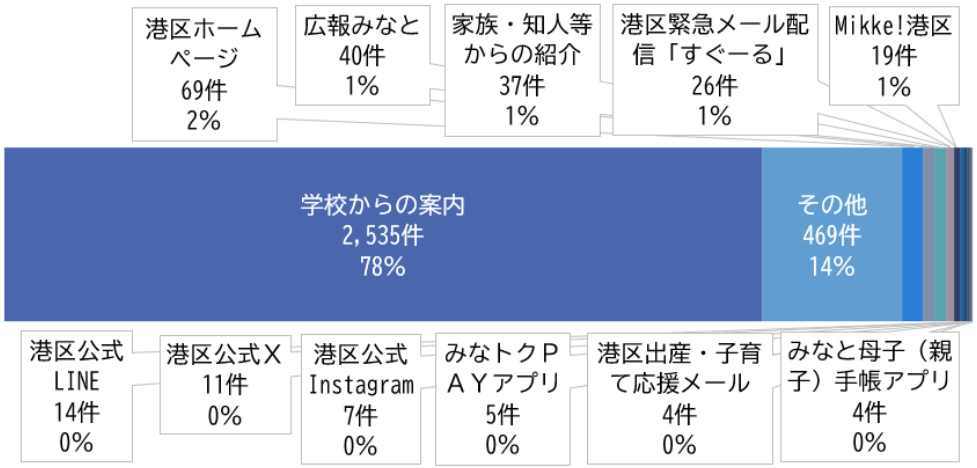
自由記述の分類ごとの件数は以下のとおりです。

カテゴリー	件数	構成比	主な内容
校則の緩和・自由な校風	331 件	16.5%	服装・髪型・メイクの自由、スマートフォンの使用、宿題や提出物の削減、生徒の自主性の尊重
部活動・スポーツの充実	314 件	15.7%	部活動の種目・数の拡大、本格的に取り組める指導体制、運動できる環境の確保
学びの選択・個別最適な学び	239 件	11.9%	選択授業・単位制、自分のペースでの学習、探究・実験・実習の充実、芸術や歴史等の特定分野の深化
人間関係・安全安心・居心地	229 件	11.4%	いじめ・差別のない学校、落ち着ける居場所や休憩スペース、友人と楽しく過ごせる環境
施設・設備の充実	176 件	8.8%	新しく広い校舎、広い校庭・体育館、図書館、自習スペース、トイレの清潔性、空調等
特になし・分からない	99 件	4.9%	「特にない」「今のままでよい」等
国際理解・語学・留学	95 件	4.7%	留学制度、外国人生徒との交流、英語をはじめとする語学教育の充実
ＩＣＴ・先端技術の活用	80 件	4.0%	タブレット等の活用、プログラミング、ＡＩ・ロボット等の先端技術に触れる機会
教員の質・指導・相談体制	72 件	3.6%	分かりやすい授業、生徒に寄り添う教員、いつでも相談できる体制

学力水準・進学実績	65 件	3.2%	進学実績の確保、学力水準の維持、学び直しや補習の充実
給食・食環境	55 件	2.7%	給食・食堂の充実、購買や学食の設置
行事・体験活動・自然環境	32 件	1.6%	文化祭・体育祭等の行事の充実、校外での体験活動、自然や生き物と触れ合える環境
制服の魅力	23 件	1.1%	制服のデザイン、制服の有無の選択
通学の利便性・立地	20 件	1.0%	家や駅から近いこと、通学手段の確保
その他(個別・具体の意見)	176 件	8.8%	特定の学校名への言及、個別具体の希望など集約しにくい記述
合計	2,006 件	100.0%	

（7）アンケートの認知経路

全回答３，２４０件のうち最も多かった認知経路は、全体の７８％である「学校からの案内」であり、次いで「その他」１４％となり、両区分で全体の約９割を占めています。



4　アンケート結果から示唆される課題と対応の方向性

（1）中高一貫校設置の方向性

区民アンケートにおける設置の必要性で肯定意見が６７％、児童・生徒等アンケートにおける就学に前向きな回答が５５％となり、中高一貫校設置に向けて、肯定的な意見を確認できました。一方で、中立意見や否定意見も一定数存在しています。

今回の結果を踏まえ、アンケートから得た課題等を精査しながら、設置方針の作成に向け、検討を進めます。

（2）中高一貫校の設置場所

区民アンケートにおける通学許容時間で９割以上が４５分以内の通学を希望しており、区内でも交通利便性の優れた設置場所を検討します。

（３）中高一貫校の設置形態

港区立中高一貫校の設置形態については、特定の案に意見が集中しておらず、引き続き比較検討が必要です。区民アンケートにおける複数回答のうち全体の４２％が「中等教育学校」を選択し、次いで「港区版連携型中高一貫教育校」が３０％、「港区版併設・連携型中高一貫教育校」が２７％と続き、過半数となる突出した回答はないものの、いずれの回答も３割前後から４割程度で３つの形態がそれぞれ一定割合選択されていることから、寄せられた課題の精査と合わせて、港区立中高一貫校として最も適した形態の検討を進めます。

また、「分からない」の回答が２８％に上ることと併せて、その他の自由記述において、「選択肢の内容が分からない」、「形態を論じる前に必要性の議論を尽くすべき」とする指摘が９件あったことから、各形態の違いや設置目的の分かりやすい情報提供に努めていきます。

（４）中高一貫校の機能

機能としては、学力向上と多様な学びの両立が求められています。区民アンケートにおいて多くの回答が寄せられた「国公立大学や難関私立大学に進学可能な学力の習得」（６１％）、「高校受験にとらわれない６年間で、学習に集中できる環境」（５８％）、「総合型選抜などの多様な受験形態に対応した進路支援」（４９％）を踏まえ、学力の伸長を中心として捉えながら、「部活動に打ち込んだり、各種コンクールや社会貢献活動などに参加したりできる環境」（５２％）、「企業・大使館と連携した取組、文化財などの地域資源を活用した取組など、区ならではの教育」（４７％）などの多様な活動に関する機能や区の特性を生かした教育を検討していきます。

また、児童・生徒等アンケートにおける「給食や食堂の充実」（６７％）、「新しい校舎」（６４％）、「部活動の充実」（６３％）、「自習スペース」（５７％）といった施設・環境面の充実の視点も踏まえ、検討を進めます。

（５）中高一貫校の特色

特色（教育内容）は、国際理解教育への期待が特に高くなっています。区民アンケートにおいて突出して高い回答が寄せられた「海外研修や大使館交流等を生かしたグローバル人材の育成」（７４％）や「海外大学と連携した留学・進学制度」（４９％）、児童・生徒等アンケートにおける「英語や海外のこと」（３３％）に代表される国際理解教育への高い関心を踏まえるとともに、区民アンケートで４割程度の回答があったインクルーシブ教育（４６％）、ＩＣＴ環境（４０％）、プログラミング・生成ＡＩ（３７％）に加え、児童・生徒等アンケートで多くの回答があったスポーツ（４９％）、ＡＩやプログラミング（４３％）等の視点も取り入れながら、特色の検討を進めます。

（６）中高一貫校設置に向けた課題

入学機会の公平性などへの対応が課題です。区民アンケートにおける自由意見（１，０８３件）で多くの課題として挙げられた入学者選抜と入学機会の公平性（１８％）、教育内容・特色（１２％）にある区ならではの特色の追求、いじめ・人間関係の固定化

（５％）、教員の確保と質（６％）、既存の区立中学校１０校への影響（５％）などを課題として捉え、制度の具体的検討を進めます。

また、設置目的の説明不足を指摘する意見（６％）、設置時期・スピード、開校までの期間に関する意見（８％）も一定数あったことから、これらも課題として整理し、検討を進めます。

５　今後のスケジュール（予定）

令和８年１１月	６日	区民文教常任委員会（アンケート結果）
１２月		第３回中高一貫校検討委員会（中高一貫校の設置方針）
令和９年　１月		教育委員会協議（中高一貫校の設置方針）
２月		庁議（中高一貫校の設置方針）
３月		教育委員会審議（中高一貫校の設置方針）
３月		区民文教常任委員会（中高一貫校の設置方針）